

3国研シンポジウム

船舶に関する最新技術の紹介



ふりがな たかお よしみ

氏名 高尾 芳三

所属 水産研究・教育機構

主な経歴、研究内容

- 1987年 水産庁入庁（水産工学研究所）
- 新型魚群探知機の開発、水産音響調査手法の高度化研究に従事
- 現在 水産工学研究所 漁業生産工学部長

講演タイトル

『安全・快適・儲かる漁船漁業を目指して』

講演要旨

船にはいろいろな用途や種類があるが、「漁船」とは漁業に使われる船のことで、漁場で魚を獲ることがいちばん大事な仕事である。日本人は昔から漁船を使って種々の魚を獲って利用してきた。現在でも日本は世界有数の漁船が多い国で、約15万隻の漁船が活躍している。魚の種類や獲る方法などによって漁船の大きさや形はさまざまだが、運送が主な仕事である商船より一般には小さく、気象や海況の影響を受けやすいという特徴がある。水産研究・教育機構では、魚を効率よく獲ることができ、かつ安全・快適・省エネルギーな漁船の研究開発を進めてきた。本日は、人工知能等を使った漁場-漁港間の安全航行技術や水の中の魚を見つける「目」である新型の魚群探知機などの研究開発成果、また漁業法の改正に伴う新たな水産政策に対応し、資源を持続的に利用しつつ儲けるための新しい漁船像や考え方についてご紹介する。